

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
子ども学ゼミ A	単位認定	1	園田 雪恵
<p>【授業のテーマ及び到達目標】授業テーマ:保育の実践ユニット</p> <p>ある調査によると、保育者の90%以上が、保育の中にエプロンシアターは必要であると認識していることが明らかとなった。エプロンシアターは、手作り教材である。保育者の愛情や温かみが子どもに伝わり、演じることにより子どもと心をかよわせることができる。授業ではエプロンシアターの作成と演じる保育技術を修得し、保育者としての資質を身に付けることを到達目標とする。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>半期で、エプロンシアターの作品を1つ仕上げ、その作品についての指導案1枚及びレポート(1000字程度)を提出する。授業計画は、作成例として載せているため、個々の題材により作成過程は変わってくる。エプロンシアター作成後は、保育者役となり、ゼミ生を子どもに見立てて行うエプロンシアターの発表がある。</p>			
<p>【全体の授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・ゼミ訪問1. 2 2. ゼミ選択・講義開始(オリエンテーション) 3. エプロンシアターの作成計画 4. エプロンの作成:布の裁断・布のまわりをかがる 5. エプロンの作成:ポケット作成、紐をつける 6. エプロンシアターの中身:背景を作る 7. エプロンシアターの中身:うさぎを作る 8. エプロンシアターの中身:くまを作る 9. エプロンシアターの中身:魚を作る 10. 作成したものにマジックテープを縫い付ける 11. エプロンシアターの指導案作成・提出 12. エプロンシアターの発表(2年生の発表) 13. エプロンシアターの発表(1年生の発表) 14. エプロンシアターのレポート作成 15. エプロンシアターのレポート発表 			
<p>【準備学習の内容】</p> <p>予習のあり方:エプロンシアター作成の準備をしておくこと。指定された期日までに完成できるように、進行状況により授業以外でも作成し演じる練習をしておく。</p> <p>学習のあり方:授業中は、作業に徹し、期日までに完成できるよう計画性をもって作成すること。また、実習現場を想定し、子どもに対する表現方法を検討すること。</p> <p>復習のあり方:エプロンシアターを演じる練習を繰り返し行い、保育や教育にいかせるようにする。</p>			
<p>【成績評価】エプロンシアターの成果物(30%)・指導案及びレポート1000字(20%)・エプロンシアターの発表(50%)で、総合的に評価する。</p>			
<p>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】エプロンシアターの発表及びレポート発表の回で、自分自身の振り返りと、他のゼミ生の発表の評価を行なう。</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>資料は、適宜配布する。</p>			

【参考文献】

中谷真弓『わくわくエプロンシアター』チャイルド本社